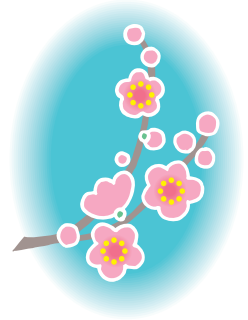


1月3日

成人式が 開催されました



成人式で行われた新成人の主張について2月号に引き続き、今月号では大森優寛さんの主張をご紹介します。

社会教育課

私を変えてくれた出会い



大森 優寛

母からは虐待を受けていると思われるくらい、毎日怒られていました。

家でも学校でも問題を引き起こす、いわゆる問題児でありました。そのため、小学校5年生の5月から夏休みになるまでの間、南国の中央児童相談所にある里親の家に預けられ、そこから汽車で毎日、伊野小学校へ通っていたことがあるのです。

私は現在、高知大学理学部の2回生です。日々の学業、サークル活動、そしてアルバイトと青春のエネルギーを燃やしています。将来は教師になりたいと思っています。今日の成人の主張をさせていただくことはとても恥ずかしく思っていますが、教育長さんやかつてお世話になった小学校の校長先生の「発表してみんかえ。」の推薦をいただいたという経緯があり、この席に立たせてもらっています。

今日、出席されている同級生も「エーあの大森が；成人の主張を。」と思っっていると思います。

正直言って、小学校時代を思い出したら、恥ずかしい気持ちでいっぱいです。

私には2人の妹がいます。よく喧嘩をしたというより、いじめていたと言った方がいいかもしれません。そのた

後、吹奏楽部に入部したことがきっかけでした。

入部の要因は、友人が科学部に入部しようとしていた私を誘ってくれたという単純なもの、最初は小学校の時に好きだったリコーダーを吹きに行くつもりでした。しかし、吹奏楽経験者の方はご存じの通り、残念ながら吹奏楽にリコーダーというパートはありませんでした。そこで、私は小学校の時、運動会の行進曲でよく聞いていたトランペットという楽器を吹いてみることにしました。私を誘ってくれた友人もトランペットだったので吹奏楽に関して自分が知らない知識を色々教えてくれました。

「さあ、これから長く楽しい部活生活が始まるぞ！」と意気込んでいた自分がいました。しかし、実際は顧問の畠山先生の厳しさと激しさにやっとの思いでついていったというところが本音です。しかし、その厳しさが今の私を支える土台を作ってくれました。

私が始める前は基礎練習の継続でした。私は当初、一つのことに集中して継続する力を持っていませんでしたから基礎練習は苦痛でしかありませんでした。しかし、基礎練習をしな

れば奏者として巧くなれないことを知り、目標である「友人を抜きたい！」という気持ちも手伝って、基礎練習を続けることを学びました。

基礎練習を続けると、奏者として少しずつではありますが、成長していききました。そして、成長とともに、顧問から奏者への要求が難しくなっ

ていき、課題をたくさん出され、毎日その課題をこなすことに明け暮れていました。そこで、「自分に頂点はない！努力すれば、できないことはない！」ということを学ぶことができました。

他にも、仲間と一つの音楽を作る上での協調性の大切さなど、吹奏楽をして畠山先生との出会いで数々の大切なことを学ぶことができました。また、担任の多田先生との出会いが大きくしてくれました。先生の口癖は「気合いと根性」。私は、この言葉に幾度となく助けられてきました。部活や勉強でくじけそうになっても、この言葉を胸に、辛いことも乗り越えてきました。